

◆宮柁二カレンダー(33) 十二月の歌

くれなるに山茶花吹けば十二月母七十九我れ

五十三

歌集『藤棚の下の小室』

章題「人工川」中の一首で、初出は「文芸朝日」の昭和39年12月号である。字句に異同があり、元は「くれなるの山茶花吹かば十二月母七十九吾れ五十三」(傍点・筆者)であった。仮定の「咲かば」を「咲けば」として景を確定したのが、大きな特徴である。眼前の山茶花となった「くれなる」の花を眺めて、一年の最後の月である十二月を思う。高齢の母の齢と、働き盛りを過ぎた自身の歳を詠みこみ、新年への願いも隠る歌となった。数字の具体が、現時点での柁二の生を伝える。

(原賀 櫻子)

宮柁二没後三十五年